

■関係人口の拡大と
移住定住の促進

「若者世代ふるさとネットワーク」鹿角家^{アゲ}U²⁵において、SNSなどを活用した情報発信の強化に加え、ふるさと仕送り便の対象者を市外在住者に拡大することで、登録者の増加を図り、ふるさとへの愛着とUターン機運の醸成に取り組みます。

併せて、首都圏での移住フェアやオンライン相談のほか、シングルマザーを対象とした移住体験ツアーを開催するなど、効果的な情報発信を展開します。また、市内事業所とも連携しながら、子育てや仕事など、安定した生活ができる環境を整えるほか、新たに民間賃貸住宅の家賃の一部を助成することで、若年層や子育て世帯を呼び込み、移住者のさらなる増加につなげます。

■交流人口の拡大

東京都葛飾区と締結した「森林整備の実施に関する協定」に基づき、森林保全や地球温暖化防止にも連携して取り組みながら、さらなる交流を深めます。また、市内全域を大学

キャンパスに見立てた「鹿角キャンパス構想」を推進するため、包括的連携協定を締結している学校法人武蔵野大学との連携をさらに深め、本市での大学の活動を促進する「域学連携」の受け入れ拡大を進めます。

■ブランド農畜産物の
生産拡大

稲作中心から収益性の高い野菜や花きへの転換を図るとともに、主食用米から飼料用米などの新規需要米への転換を進めます。「淡雪こまち」については、国の「みどりの食料システム戦略」への対応を見据え、有機農業の足掛かりとして、引き続き特別栽培米による作付けを支援します。「かづの牛」については、頭数の維持・拡大を支援するとともに、枝肉出荷頭数100頭台の達成と早期GI登録（地理的表示）に向け、関係機関や畜産農家と連携しながら、かづの牛のブランド確立に取り組みます。

■稼げる観光振興

国立公園八幡平エリアにおけるサイクリングルートの設定やイベント開催により、八幡平魅力アップ構想の取り組みと一体となって、国内外からの誘客を進めます。また、中



教育執行方針

令和5年第2回市議会定例会で教育長が発表した「教育執行方針」から、教育行政における本市が目指す方向性と今年度の取り組みをお伝えします。

■学校教育の充実

主体的・対話的で深い学びを推進するため、教職員研修の充実を図るほか、学級集団の状況調査を実施し、各種学力検査の結果とともに分析を行い、よりよい学級経営や授業改善、児童生徒の個別支援と学力向上に役立てます。

また、ふるさとのよさに触れる体験活動を通じて、ふるさに誇りを持ち、地域のよさを積極的に発信しようとする児童生徒の育成に努めます。さらに、地元企業での職場体験や、特色ある地域行事へのボランティア参加を推進し、将来の夢と望ましい職業観を育みます。

「ふるさとかづの絆プラン事業」では、体験活動や学校間での連携を通して、市全体を我がふるさとと捉えることができる児童生徒を増やし、鹿角の未来を支える人材を育成します。

学習用端末と電子黒板を授業で活用するとともに、学習用端末は家庭での学習にも活用範囲を広げるほか、言語活動を充実させてグローバル化に対応する能力の育成も図ります。

中学校部活動については、地域移行に向けた検討を行います。

個別支援を必要とする児童生徒には、特別支援教育支援員が学級担任と連携しながら、一人一人の教育的ニーズに応じた適切かつ効果的な支援を行います。

■生涯学習の推進

生涯学習活動の効果的な推進に向

滝ふるさと学舎での新たな体験メニューの提供や、十和田湖を眺望できる甲岳台展望台までのアクセス道路の再整備などにより、魅力の再構築を図りながら、宿泊者数の増加とリピーターの獲得につなげ、稼げる観光を体現します。

■エネルギー産業の育成

2030年までのカーボンニュートラル達成を目指し、地球温暖化対策実行計画に基づいた施策を展開するほか、総務省の「地域プロジェクトマネージャー制度」と「地域おこし協力隊制度」を活用した専門人材の配置により、計画の着実な推進とエネルギー関連産業の活性化を図ります。

■世界遺産のまちづくり

大湯ストーンサークル館内に整備した4K映像やAR（拡張現実）、アプリなどのコンテンツのほか、縄文食やまつり体験プログラムなどを最大限活用しながら、遺跡の魅力を積極的に発信し、国内外からの観光誘客に取り組みます。

け、社会教育や福祉関係団体、自治会などとの一層の連携を図ります。

また、インターネットの活用による情報発信の強化や多様な学びの機会の提供のほか、図書館を拠点とした学びの充実に向けて、図書館施設の更新を進めます。

地域を担う人材育成のため、地域の課題解決や活性化に向けた学習機会の提供や学習活動支援の充実を図り、自らが意欲的に学び行動する人材を育成します。

地域特性や各世代に対応した学習と活動の支援については、地域の歴史や伝統、文化、地域人材を生かした学習活動など、生涯にわたる学習機会の充実を図りながら、学びの成果を地域に還元し、次世代に継承する活動を支援します。

また、誰もが共に学びあえる地域社会の実現のため、年齢や障がいの有無、国籍にかかわらず生涯にわたる学びができるよう、学びの場の提供や交流機会の拡充、相互理解の促進により、誰もが尊重され、共に学びあえる生涯学習の環境づくりを進めます。

■スポーツの推進

体力や年齢、目的に応じ、生涯を通じてスポーツに親しむことができるよう、チャレンジデーやタートル

また、ヘリテージ・ツーリズムのプロモーション展開のほか、大湯環状列石を会場に、縄文祭と市内の祭りが一堂に会する鹿魂祭^{ろくこんさい}の合同開催などにより、「世界遺産のまち・かづの」としての認知度を向上させます。

大湯環状列石の史跡と大湯ストーンサークル館の再整備に向けた計画の策定を進めるほか、無形民俗文化財の担い手育成支援を積極的に進めながら、持続可能な文化財の保存活用を進めます。

■未来技術の導入

行政手続における利便性向上のため、電子申請サービスの拡充と自治体DXを進め、市民サービスの向上と業務の効率化を図ります。

■地域人材の育成・活動支援

「地域づくりミートイニング」を継続し、市民や地域との対話を重ね、地域の課題解決やミートイニングにおける提案などの具体化のため、地域づくり協議会などが主体となる取り組みを支援し、地域と共動しながらまちづくりを進めます。

マラソンなど、気軽に親しむことのできる運動機会を創出し、健康づくりへの市民意識の向上を図ります。

また、十和田八幡平駅伝競走全国大会や全日本学生スキー選手権大会などの開催を通じて、地域活性化を図ります。

スポーツ施設の利用促進と整備については、総合運動公園総合競技場が、令和5年6月に公認更新時期を迎えることに加えて、供用開始から23年が経過し老朽化していることから、公認更新検定と改修工事を実施します。

■文化・芸術の振興

文化財の保存会や関係団体が行う後継者育成、継承活動を支援するとともに、将来に向けた文化財の保存活用を図る地域計画の策定を進めます。また、歴史民俗資料館や先人顕彰館では、郷土の歴史や民俗資料の調査研究の成果に基づいた学習機会の提供に努めます。

特別史跡大湯環状列石については、「北海道・北東北の縄文遺跡群」との連携を図るほか、世界文化遺産としての魅力ある地域資源に磨きをかけるとともに、学術的な魅力向上と、観光との連携強化により、文化財の保存活用と併せて地域活性化につなげます。